

特別栽培米に使用されている農薬調査【図表篇】

2024/9 アクト・ビヨンド・トラスト

「特別栽培農産物」とは、農薬の使用回数と化学肥料の窒素分量がそれぞれ各地域で定めた慣行レベルの5割以下の農産物に対し、**農薬と肥料の節減割合・節減対象農薬の名称・用途及び使用回数**を、製品のラベルや認証者のウェブサイトなどに表示して販売する仕組みです。

この制度により開示されている情報から、特別栽培のコメに使用されている殺虫剤の種類を調べてみました。

表示例（岡山県農林水産課サイトの解説より）

【例2】

農林水産省新ガイドラインによる表示

特別栽培農産物

節減対象農薬：当地比 **5割減**

化学肥料（窒素成分）：当地比 **5割減**

栽培責任者：○○○○

住所：岡山県○○町△△

連絡先：Tel.□□□-□□□-□□□□

確認責任者：△△△△

住所：岡山県○○町□□□

連絡先：Tel.□□□-□□□-○○○○

節減対象農薬の使用状況：

（セット表示例）		
節減対象農薬の使用状況		
使用資材名	用途	使用回数
○○○○	殺菌	1回
□□□□	殺虫	1回
△△△△	除草	1回

*表示できない場合は、ホームページアドレス等の入手方法を記載。

（インターネット表示例）

（節減対象農薬の使用状況）

<http://www.tokusai...jp/>

特別栽培農産物のよい点

- 農薬の使用成分数×使用回数の合計値が慣行栽培よりも少ない
- 使用されている農薬（原体名＝化合物の種類）が栽培記録で管理されており、その内容を消費者が確認できる
- 削減対象農薬不使用のものもあり、表示で確認できる

特別栽培農産物の問題点

- 農薬の全体的な使用量が少ないかどうかはわからない
- 削減対象農薬不使用の場合を除き、農薬不使用を意味するわけではない
- 使用回数を削減するために、長期間効果が続くネオニコチノイドのような農薬が選択される可能性がある

特別栽培認証マークの例



調査の方法

- 確認責任者や販売者がウェブ上に開示している「特別栽培米」の「節減対象農薬の使用状況」から、殺虫剤の名称を抽出した。具体的には、都道府県名と「特別栽培米」と「節減対象農薬の使用状況」or「農林水産省の新ガイドラインによる表示」を検索語としてヒットしたページを参照した。
- 確認責任者（農協など）単位で1サンプルとし、生産銘柄ごとに異なる栽培基準を設けている場合には生産銘柄単位とした。1サンプルに農薬使用パターンが複数ある場合、当該農薬が含まれば原体数1とした。
- 各都道府県あたり3サンプルを目安としたが、情報の見つからない/少ない地域、面積が広い/米作りが盛んな地域に則して増減がある（サンプル0件＝群馬県、東京都、神奈川県、大阪府、沖縄県）。
- 使用殺虫剤をサンプル単位で集計し、地域区分ごとに上位10剤を抽出し、各地域区分の総サンプル数に占める割合を示した。

都道府県	確認責任者	銘柄	年度	節減割合	使用殺虫剤	カウント
岡山県	JA晴れの国岡山	きぬむすめ	2023	5割減	(イミダクロプリド+シラフルオフエン) or (クロラントラニプロール+トリフルメゾピリム+エトフェンプロックス)	1サンプル (2パターン)
岡山県	JA晴れの国岡山	あさひ	2023	5割減	クロラントラニプロール+トリフルメゾピリム+エトフェンプロックス	1サンプル
岡山県	JA晴れの国岡山	星むすめ	2023	5割減	フィプロニル	1サンプル



→原体数合計のうち上位10位の各原体数を総サンプル数で除し、総サンプル数に占める各原体数を%で表示

原体数合計	総サンプル数
イミダクロプリド 1	岡山県 3サンプル
シラフルオフエン 1	
クロラントラニプロール 2	
トリフルメゾピリム 2	
フィプロニル 1	

※データ処理の例（部分）

北海道（21サンプル）

慣行成分数：16～21

主な品種：ゆめぴりか、ななつぼし、ほしのゆめ、きたくりん、ふっくりんこ

※北海道は化学肥料の削減を特別栽培基準に合致させるのが土壌の性質上難しいため、別途「北海道クリーン認証」の基準を作り、使用農薬を開示している。サンプル21件のうち、この認証基準に基づくサンプルは11件。

北海道（21）	
エチプロール	90%
エトフェンプロックス	90%
シアントラニリプロール	43%
ジノテフラン	43%
クロラントラニリプロール	38%
クロチアニジン	33%
スルホキサフロル	29%
イミダクロプリド	14%
カルタップ	10%
フルピリミン	10%

東北（20サンプル）

内訳：青森（3）、岩手（3）、宮城（3）、秋田（4）、山形（4）、福島（3）

慣行成分数：青森＝17、岩手＝16、宮城＝17、山形＝20、福島＝16～17

主な品種：ひとめぼれ、あきたこまち、つや姫、はえぬき、ササニシキ

東北（20）	
シアントラニリプロール	65%
ジノテフラン	55%
エチプロール	40%
エトフェンプロックス	40%
スルホキサフロル	20%
クロチアニジン	15%
イミダクロプリド	5%
チアメトキサム	5%
テトラニリプロール	5%
フィプロニル	5%

関東甲信（19サンプル）

内訳：茨城（3）、栃木（3）、群馬（0）、千葉（3）、埼玉（3）、東京（0）、神奈川（0）、山梨（1）、長野（3）

慣行成分数：茨城＝17、栃木＝14～16、群馬＝12、千葉＝14～16、東京＝7、神奈川＝16、山梨＝14～18、長野＝12

主な品種：コシヒカリ、あきたこまち

関東甲信（19）	
エチプロール	32%
エトフェンプロックス	32%
クロラントラニリプロール	21%
ジノテフラン	21%
イミダクロプリド	16%
ベンフラカルブ	16%
カルタップ	11%
シアントラニリプロール	11%
チアメトキサム	11%
トリフルメゾピリム	11%

北陸（15サンプル）

内訳：新潟（6）、富山（2）、石川（4）、福井（3）

慣行成分数：新潟 = 17~18、富山 = 18、石川 = 22、福井 = 20~22

主な品種：コシヒカリ、わたぼうし

北陸（15）	
クロラントラニリプロール	40%
ジノテフラン	33%
エチプロール	20%
エトフェンプロックス	20%
シアントラニリプロール	20%
スルホキサフロル	20%
フルピリミン	20%
クロチアニジン	13%
イミダクロプリド	7%
シラフルオフエン	7%

東海（13サンプル）

内訳：岐阜（4）、静岡（3）、愛知（3）、三重（3）

慣行成分数：岐阜 = 24、静岡 = 16～21、三重 = 16～18

主な品種：ひとめぼれ、ミネアサヒ、コシヒカリ

東海（13）	
ジノテフラン	92%
エチプロール	31%
エトフェンプロックス	31%
MEP	23%
クロラントラニリプロール	23%
シアントラニリプロール	15%
イミダクロプリド	8%
シラフルオフェン	8%
スルホキサフロル	8%
チアメトキサム	8%

近畿（18サンプル）

内訳：滋賀（4）、京都（4）、大阪（0）、兵庫（4）、奈良（3）、和歌山（2）

慣行成分数：滋賀＝14、京都＝16～20、大阪＝14、兵庫＝20、奈良＝14、和歌山＝20～22

主な品種：コシヒカリ、京式部

近畿（18）	
ジノテフラン	72%
シアントラニリプロール	39%
クロラントラニリプロール	22%
テトラニリプロール	17%
MEP	11%
シラフルオフエン	11%
トリフルメゾピリム	11%
イミダクロプリド	6%
カルタップ	6%
クロチアニジン	6%

中国（16サンプル）

内訳：鳥取（2）、島根（3）、岡山（3）、広島（3）、山口（5）

慣行成分数：鳥取＝20～22、島根＝20、岡山＝18～20、広島＝19～21、山口＝21

主な品種：コシヒカリ、あきろまん、ヒノヒカリ

※山口県は50%削減農産物と、それらを主原料とした農産加工品を「エコやまぐち農産物」（エコ50）の名称で認証し、使用農薬を開示している。

中国（16）	
ジノテフラン	63%
トリフルメゾピリム	50%
シアントラニリプロール	44%
クロラントラニリプロール	38%
シラフルオフエン	31%
フルピリミン	19%
イミダクロプリド	13%
スルホキサフロル	13%
フィプロニル	13%
オキサゾスルフィル	6%

四国（9サンプル）

内訳：徳島（2）、香川（1）、愛媛（3）、高知（3）

慣行成分数：徳島 = 16、香川 = 16、愛媛 = 13、高知 = 18~20

主な品種：コシヒカリ、にこまる

四国（9）	
ジノテフラン	78%
シラフルオフエン	33%
イミダクロプリド	22%
クロチアニジン	22%
クロラントラニリプロール	22%
シアントラニリプロール	22%
チアメトキサム	22%
MEP	11%
エチプロール	11%
エトフェンプロックス	11%

九州（23サンプル）

内訳：福岡（3）、佐賀（4）、長崎（2）、熊本（4）
大分（4）、宮崎（3）、鹿児島（3）、沖縄（0）

慣行成分数：福岡＝14～20、佐賀＝18～23、長崎＝
22～24、熊本＝19、大分＝19～22、宮崎＝20～22、
鹿児島＝18～22、沖縄＝22

主な品種：さがびより、森のくまさん、ヒノヒカリ

※宮崎県は特別栽培に加えて、節減対象農薬を50%削減、
化学肥料については慣行レベルまで可とした農産物を宮
崎県経済連認証の「情熱みやざき農産物」として使用農
薬を開示している。宮崎県の3サンプルはこれに相当。

九州（23）	
ジノテフラン	71%
クロラントラニリプロール	57%
トリフルメゾピリム	57%
シアントラニリプロール	24%
オキサゾスルフィル	19%
MEP	14%
スルホキサフロル	14%
メタアルデヒド	10%
テブフェノジド	10%
フィプロニル	10%

各地域上位10種の殺虫剤の概要（総サンプル数順）

IRAC系統分類	原体名	種籾 処理	苗箱 施用	田植 え時	水田 散布	空中 散布	主な対象害虫
4 ネオニコチノイド系	ジノテフラン		●	●	●	●	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ
28 ジアミド系	クロラントラニリプロール		●	●			イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ
2 フェニルピラゾール系	エチプロール		●		●	●	ウンカ類、カメムシ類、イネドロオイムシ、イナゴ類
3 ピレスロイド系	エトフェンプロックス				●	●	ツマグロヨコバイ、ウンカ類、カメムシ類、イネツトムシ、コブノメイガ
28 ジアミド系	シアントラニリプロール		●	●			イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、コブノメイガ
4 メソイオン系	トリフルメゾピリム	●	●	●			ウンカ類、ツマグロヨコバイ
4 スルホキシイミン系	スルホキサフロル				●	●	イナゴ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類
4 ネオニコチノイド系	クロチアニジン		●	●	●	●	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、イネドロオイムシ、イネアザミウマ
4 ネオニコチノイド系	イミダクロプリド	●	●	●	●		イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類
3 ピレスロイド系	シラフルオフェン						2023年5月登録失効
1 有機リン系	MEP	●	●		●	●	ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ、カメムシ類、イネドロオイムシ
4 ピリジリデン系	フルピリミン		●	●	●	●	イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、フタオビコヤガ、カメムシ類
4 ネオニコチノイド系	チアメトキサム		●	●	●	●	イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ
IRAC未定	オキサゾスルフィル		●	●			ウンカ類、コブノメイガ、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ
14 ネライストキシン類縁体	カルタップ	●	●	●	●		イネシンガレセンチュウ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、イネハモグリバエ
2 フェニルピラゾール系	フィプロニル		●	●			イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ
28 ジアミド系	テトラニリプロール	●	●	●			イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ
1 カーバメート系	ベンフラカルブ		●				イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、イネヒメハモグリバエ、セジロウンカ
18 ジアシル-ヒドラジン系	テブフェノジド				●	●	コブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、フタオビコヤガ
IRAC未定	メタアルデヒド				●	●	スクミリンゴガイ